

NRS株式会社
代表取締役社長
戸木 眞吾



我々の生活がより豊かに・より便利に・より機能的に発展するに欠かせない化学品、NRSが持つ物流機能はグローバルにおいて化学品の重要なサプライチェーンの一角を支えています。

「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」の企業理念に基づき、「総合力で化学品物流をリードする」の経営ビジョンをあげ、「地球の化学品物流に最適解を ベストアンサーはNRS」の存在意義を高めるために、絶え間なく進化し、より高付加価値なサービスを追求して企業価値を高めてまいります。安全と遵法を基本に据えて、顧客・それにかかわるすべてのステークホルダーから信頼され社会の持続的成長を支える事業を繋いでいきます。

企業理念 「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」

物流は「製造」と「消費」をつなぐきわめて重要な役割を持ち、産業の基幹をなしています。化学製品は自動車、家電、IT、医療、食品、エネルギー等、人類社会の豊かな生活に不可欠なものです。一方でその原料の化学品は、「燃える」「爆発する」「毒性が強い」など非常に危険な性質を持っています。この化学品の物流にもっとも重要なもの、それは「安全」、そして「法の遵守」です。安全と法令順守、このことを基本に据えて、高品質・高効率な物流サービスを提供することが化学品の総合物流事業者であるNRSグループの使命であります。NRSグループの従業員は日ごろから自己研鑽に努め、自立的、自発的な行動のもと、顧客の要求に的確、且つ迅速にこたえられる高い品質と規模を備えた会社をつくりあげる。そのことによって顧客、取引先と社会に貢献し、広く支持されることを目指したいと思えます。

従業員が誇りをもって仕事をする。そして物心両面で幸せを感じられる会社。まさしく「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」という創業の理念に到達できると信じるものです。



NRSグループのビジョン

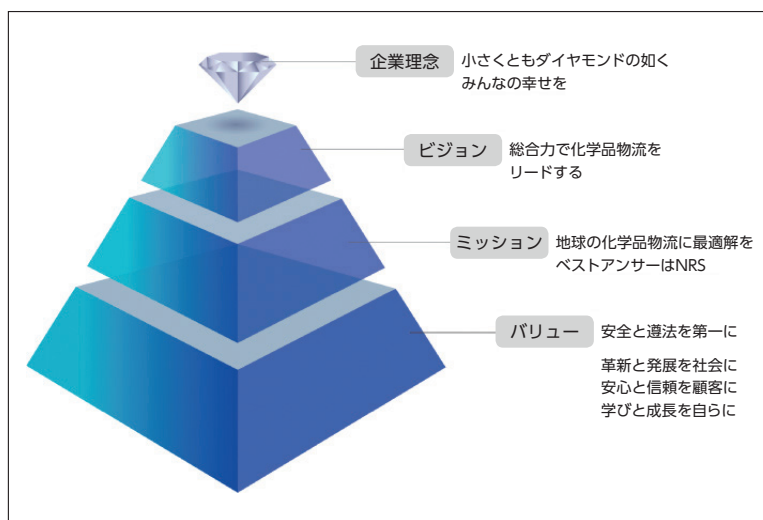
NRSグループ理念体系の明確化

当社は企業理念に基づき企業活動を展開しておりますが、ビジョン・ミッション・バリューとの結び付きをさらに明確化、体系図に集約いたしました。

「ビジョン」は企業理念に基づく経営目標・将来のあるべき姿を、「ミッション」は当社の存在意義として何をすべきか、何を成し遂げるべきか、社会へどのような価値を提供するのかをそして「バリュー」は、これらを実現するための行動方針・指針をそれぞれ示したものです。

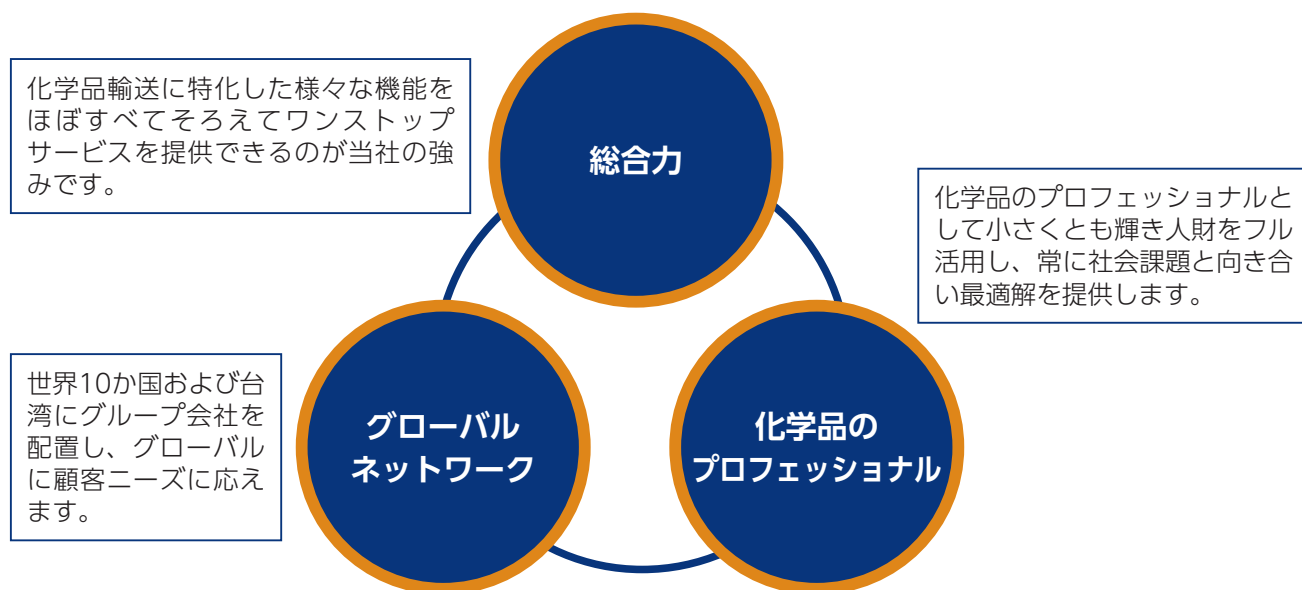
これらを明確にすることで、より効率的な組織運営およびブランドイメージの醸成を通じてサステナビリティを実現してまいります。

NRSグループ理念体系



NRSグループの強み

新型コロナウイルス感染拡大、ウクライナ情勢を機に、サプライチェーンの重要性が再認識されています。当社グループでは、安全と法の遵守を基本に据えて、「総合力」、「グローバルネットワーク」、「化学品のプロフェッショナル」の強みを今後も強化し、高付加価値なサービスを追求します。



| | |
|-------|---|
| 1940~ | <p>1946年 戦災タンク貨車の復旧による石油化学品の輸送販売を目的として「日本陸運産業株式会社」設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ■日陸輸送株式会社、日陸倉庫株式会社設立 <p>京葉工業地帯の石油コンビナートに大規模な危険物倉庫を開設。タンクローリー輸送事業、関西地区のタンクヤードとともに化学品業界の発展に貢献</p> |
| 1980~ | <p>安全で高効率なISOタンクコンテナの国内運用の道を開く</p> <ul style="list-style-type: none"> ■高石ケミカル株式会社設立。通関事業開始。 ■タンクコンテナ事業開始、海上タンクコンテナ事業部門開設 <p>当時日本で国内運用が認められていなかった国際輸送用ISOタンクコンテナに注目。最大積載量24tに対応した車両を車両メーカーと共同で開発。消防関係規則の緩和を当時の政府に強く働きかけ、輸出入貨物限定で24t ISOタンクコンテナの国内通行許可を取得。さらに働きかけを続け、1999年には上記の最大積載量が30.48tへ緩和、2004年には"輸出入貨物限定"条件が撤廃され、効率的で省資源な物流に貢献。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■日本での輸出入の増加に伴ってトレーラーの横転事故が全国で多発。車両メーカーに共同開発を持ちかけ「横転抑止装置付海上タンクコンテナ積載専用シャーシ」を開発し、翌年当社の全事業所に配備した。 ■米国・ニューヨークに現地法人NRS America Inc.設立 [現NRS LOGISTICS AMERICA INC.] ■英国インターフロー（タンクコンテナシステム）社を買収し、NVO事業を開始 [現NRSオーシャンロジスティクスリミテッド] ■IBCのレンタル・販売開始 ■シンガポールに現地法人NRS Singapore Pte. Ltd.設立 [現NRS LOGISTICS SINGAPORE PTE. LTD.] |
| 2000~ | <p>中国交通部の要請で本格的な危険物倉庫を開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ■中国・上海に合併会社上海日陸外聯発物流有限公司設立 ■無機シアン化合物またはフッ化水素若しくはこれを含有する製剤の運搬については、輸送数量が10kl以下に制限されていたが、当社が事務局を務める日本危険物コンテナ協会を通じて、長年にわたり熱心に関係省庁に働きかけたことにより、IMO基準にISOタンクコンテナであれば容量の制限なく運搬が可能となり、当社が最初に無水フッ化水素の国内輸送を手がけた。 ■中国・上海に保税危険物倉庫開設 <p>当時、中国の危険物倉庫は小屋のような建物に消火器がある程度のものであった。中国交通部が日本へ危険物物流の視察に来日した際に対応していた縁で、上海での危険物倉庫運営の要請があり、上海港に保税危険物倉庫を開設。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■航空貨物輸送事業部門開設 <p>2008年 社名を「株式会社日陸」に変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ■医薬品、医薬部外品、化粧品の製造業（包装・表示・保管）許可取得 ■IATA貨物代理店認可取得 ■IT点呼の考案 <p>乗務員の健康管理と安全確保の基盤となる点呼は、深夜、早朝に行われることが多く、運輸事業者の間では大きな経済的、人的負担となっていた。そこでITを活用したIT点呼を考案し、国土交通省で認可を得て、安全運行と業務改善の向上に繋がった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■東京税関より認定通関業者（AEO制度*）認定を国内第1号として取得 ■環境ISO14001認証取得 |
| 2010~ | <p>日本で培った安全品質物流のノウハウを展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ■韓国・ソウルに現地法人NRS LOGISTICS KOREA CORPORATION設立 [現NRS LOGISTICS KOREA CO., LTD.] ■タイ国・バンコクに現地法人NRS Logistics (Thailand) Co., Ltd.設立 [現NRS LOGISTICS (THAILAND) CO., LTD.] ■台湾・台北市に台湾支店開設 ■NRS Logistics Vietnam Co., Ltd.設立 ■東京税関より特定保税承認者（AEO制度*）の承認取得 ■ベトナムに現地法人NRS Raiza Logistics Vietnam, JSC.設立 <p>同国初 日本品質の危険物倉庫を開設へ</p> |
| 2020~ | <p>2022年 社名を「NRS株式会社」に変更</p> <p>2023年 熊本支店開設</p> |



輸送事業



倉庫事業



タンクヤード事業



コンテナ事業



フォワーディング事業



IT点呼の様子



ベトナム初 日本品質の危険物倉庫

* AEO制度：貨物のセキュリティ管理と法令遵守（コンプライアンス）の体制が整備された事業者に対し、税関が承認・認定し、税関手続の緩和・簡素化策を提供する制度



NRSグループの目指すサステナビリティ

持続可能な社会創出（サステナビリティ）に対する考え方

NRSグループは化学品・危険物物流のリーディングカンパニーとして、地域や環境への負荷を軽減する事業活動を徹底しています。

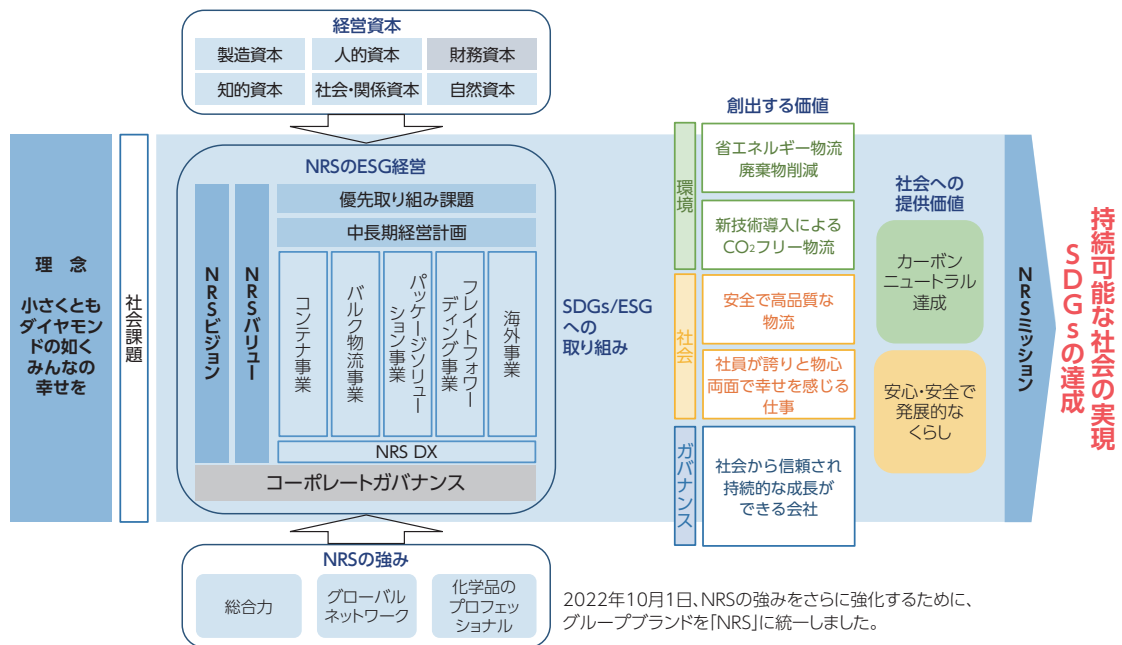
これからもSDGs/ESGに配慮した企業活動を継続し、持続可能な社会の創出に貢献します。



NRSグループのサステナビリティロードマップ

企業理念を頂点とするグループ理念体系を明確にしました。

企業理念およびグループのビジョン・ミッション・バリューをグループ全従業員が自覚し、当社の強みと経営資本をフル活用し、持続可能な社会の実現へ邁進します。



NRSグループの目指すサステナビリティ

SDGs達成（2030年）に向けたNRSグループの重要課題（マテリアリティ）



CO₂排出の削減

変動要因はGHG（主にCO₂）であり、その主要発生源は化石燃料と電力です。燃料については脱化石系への切り替えを使命とし、水素・EV・バイオマス等への代替を進めます。電力については太陽光発電の取り込みや電力購入先の再生可能系への転換を計画的に進めます。また、省エネルギー・省資源化への取り組みは日常作業として定着に努めます。

コンプライアンスの徹底

関係法令の遵守はもとより、社内規程や作業マニュアルに至るすべてのルールの遵守を徹底しています。コンプライアンス委員会を通じて法令の遵守状況を確認し、管理監督および必要に応じた是正を進めています。

多様性の尊重と働きやすい職場づくり

少子高齢化の中で優秀な人財を確保・育成し、成長し続ける企業であるために、外国籍人財の積極的な採用や定年制度の延長など多様性の尊重（ダイバーシティ）を推進しています。また、組織の活力である社員が十分に能力を発揮できるように、ワークライフバランスを重視した制度の拡充や、多彩な教育研修の計画と実施を進め、安全で働きがいのある職場づくり（ディセントワーク）に取り組んでいます。

安全で高品質な物流の提供

化学品は社会の発展に大きく寄与します。しかし、大気・水質・土壌等環境への悪影響や大規模災害に繋がるリスクの考慮が欠かせず、取り扱いには専門的な知識・技能や経験が必要となります。NRSグループでは、化学品物流のプロフェッショナルとして安全で高品質な物流を提供するために積極的な人財育成、物流荷役設備の整備・予防保全、DXのさらなる推進に取り組んでいます。

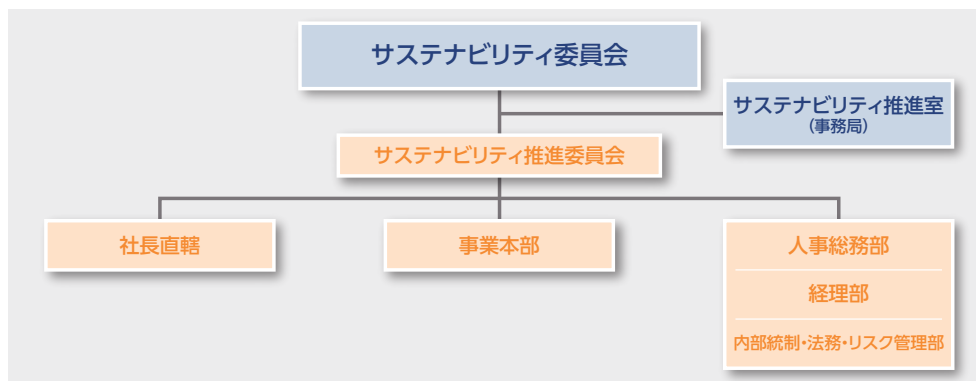


NRSグループの目指すサステナビリティ

サステナビリティ推進体制

NRSグループは、事業を通じて環境・社会課題解決に貢献しながら持続的な成長を達成すべく、代表取締役社長を委員長としたサステナビリティ委員会で重要方針を策定し、その下部組織であるサステナビリティ推進委員会の活動を通しESG推進に積極的に取り組んでおります。

サステナビリティ推進体制図



サステナビリティ推進に係る社内活動

| | |
|----------|--|
| 2022年10月 | 社名変更 : グループ総合力のさらなる強化 組織を改正し、グループ経営・DX推進・コンプライアンスの強化をより確実に実現する機能を明確化 : 「海外戦略事業部」「デジタルデザイン統括部」「内部統制・法務・リスク管理部」を創設 三井住友銀行より「SDGs推進融資」実行証を取得 ▶次ページ 活動トピックス1 |
| 2022年12月 | ビジョン・ミッション・バリューの策定 |
| 新年度より | 社長を委員長とするサステナビリティ委員会の開催頻度を年4回(四半期毎)に拡大。同推進委員会との連携も強化し、サステナビリティ関連事項の迅速公正明確な社内浸透を強化。 ・1回: 22年10月19日 前年活動実績と新年度の活動計画 ・2回: 23年1月17日 サステナビリティレポート製作状況報告 CN方針として2030年目標を電力由来のCO ₂ 排出ゼロ化 等決議 ・3回: 23年5月17日 上期活動状況・下期計画および24年計画Draftの報告 ・4回: 23年8月23日 CSR調査対応状況・購買調達機能部門の設置・CN方針 等 |
| 2022年12月 | サステナビリティレポート創刊。環境・社会・ガバナンスへの取り組みを整理し、グループ全従業員をはじめ広くステークホルダーとも共有する。さらに、グループのビジョン・ミッション実現への課題も明確化し、これらを解決することで持続可能な社会創出へも貢献。 |
| 2023年6月 | NRSグループ理念体系を明確化 持続可能な社会創出に向けて、当社の存在意義やグループ全従業員が目指す指針を明確化し、ステークホルダーとも共有を図る。 |
| 2023年7月 | NRSグループDX戦略策定 |
| 2023年8月 | サステナビリティ活動の外部評価継続 (ecovadis評価へ対応) |
| 2023年9月 | リスク・コンプライアンス規程として刷新 |
| 2023年10月 | 贈収賄防止基本方針策定 「NRSグループ 調達基本方針」策定 ▶次ページ 活動トピックス2 その他・カーボンニュートラル実現へのロードマップ討議・2030年目標の設定 ・エンゲージメント調査(2年目)から特に女性活躍に向けての課題抽出 |



NRSグループの目指すサステナビリティ

活動トピックス1：「SDGs推進融資」の実行証を取得

三井住友銀行様より、当社の様々な持続可能な取り組みに対しSDGsの目標達成に向けた貢献が期待できると評価され、「SDGs推進融資」の実行証を受けました（2022年10月）。

本融資は、株式会社三井住友銀行様と株式会社日本総合研究所様が、企業のSDGsに関する現状の取り組み状況を確認した上で、本業を通じたSDGs貢献への道筋（ロジック）を分析し、SDGsの取り組み推進に向けたアドバイス等を提供されるものです。

以下に記す事業を通じて、SDGsの目標達成に向けた貢献が期待できると判断されました。

- ① 運送業を通じたカーボンニュートラルへの貢献、廃棄物の削減
：関係するSDGsの目標番号 7・12・13
- ② 安全な労働環境の促進、従業員の働きがいの向上
：関係するSDGsの目標番号 8



NRSグループは、今後もSDGsの目標達成に向けた取り組みに邁進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

活動トピックス2：「NRSグループ 調達基本方針」策定

当社では、これまでも購買管理規程に基づく購買・調達活動として、公正な取引・取引先様の評価と選定・社内承認取得・納期管理・支払い処理等々を進めております。今般、サプライチェーン全体を通してのサステナブルな調達への要求が高まる中、公正な取引に際し資源・環境の保護、人権、安全等への影響を含めた「NRSグループ 調達基本方針」を明確にいたしました。

本方針に則り、環境面・人権面を含むガバナンス・コンプライアンスの向上を通じて、ステークホルダーの皆さまとの健全で良好な関係をさらに強化してまいります。

「NRSグループ 調達基本方針」

「NRSグループ 企業倫理綱領」の考えに基づき、法を遵守し、倫理観を持った誠実な購買活動を行うことを宣言します。

方針で定める内容

- 公正・公平な取引先の選定・契約と、国内外の企業に対し公平な取引の機会を提供すること
- 購買取引にあたり、関連法律を遵守し、取引先の知り得た機密情報を守秘すること
- 持続的発展可能な社会の実現に貢献するため、購買取引にあたり資源・環境の保護、人権、安全に配慮し、企業の社会的責任を果たすこと

